

探偵研究會編

探偵文庫 第五號 強賊

X 組

定價金拾五錢
郵稅金四錢

茲に東京から京阪地方にかけて強賊 X 組と云ふ大賊が著れた、彼等の行動は眞に神出鬼没、今日東京に在ると思へば明日は大阪に出没し、朝に名古屋を襲來するの形跡と見れば夕には静岡を侵すと云ふ有様、追に當代の鬼探偵と稱せらるゝ某刑事も、今は手の下し様もなく、唯々飽くまで大膽不敵な X 組の行動に驚愕するばかりである、仍で鬼探偵の某氏は、遂に走せて此れを「今は其職を辭して相州沼津の邊りに庵を結び、雪月を友として老後の閑を樂しんで居られる、南岳翁」(其當時稀代の探偵、東洋の探偵王とまで尊稱を受け、遠く歐洲にまで雷名を轟かした某氏)に就て探偵方針の指導を受け、茲に始めて一縷の光明否一策の奇計を以て遂に彼の X 組の主領を捕縛すると云ふ眞に古今無比の大活劇、そも東洋探偵王の授けた探偵方針は如何、そも鬼探偵の活動や如何、讀め／＼本書の内容は即ちそれ。

278
150

終

